

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価 岐阜県立東濃実業高等学校 学校番号 40

1 学校教育目標	(1) 誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体の上で、すぐれた知識と技術を兼ね備えた創造性に富む実践的な人材を育成する。 (2) 社会や時代の変化に即して、地域と連携しながら、生徒が自主的・主体的に学ぶことができる活力ある学校を目指す。 (3) 将来、産業界の各分野で貢献できるような幅広い教養と専門分野の基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生涯を通じて絶えず学習に努めることのできる資質を育てる。
2 現状の分析	○商業科及び生活産業科を併置する専門高校として、特色ある専門教育を実施し成果をあげている。特に、地域と連携した地域貢献活動やボランティア活動、また、挨拶・身だしなみやマナーといった「東実ブランド」が、地域の方々や中学生の間で評価されている。 ▲新学習指導要領について、職員が理解し令和4年度実施に向けて準備する。また、指導と評価の一体化、考査のさらなる適正化、指導力向上に向けた体制をつくる。
3 学校の抱える課題	・学習指導及び部活動指導その他校務分掌に関わる長時間勤務や多忙化解消に向けた取り組みを推進していく。 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教育課程の編成を行い、商業と生活産業の教育目標を達成すべく、ICTを有効活用しながら地域の企業等と連携して実践的な学びを推進する。
4 今年度の具体的な重点目標	◇あらゆる面で学校経営を見直すために内規及び学校運営組織の見直しとICT活用含めたDXを推進する。

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒指導 人権教育	①『あずさカード』の発行	①年間一人10枚以上発行	①対前年で発行数減少	C	▲コロナで生徒活躍場面減少 ○PTAと連携した人権教育 ○飛沫拡散防止シールド採用	B
	②人権教育のための講演会企画	②アンケート実施	②レモンさんのオンライン講演実施	A		
	③『新しい行動様式』の徹底	③生徒及び教員の感染者数ゼロ	③PTAと連携し3密回避で感染者数1名	A		
進路指導	①進路ガイダンス実施	①進路講話実施年8回	①進路講話等年4回実施	B	○リモート卒業生と語る会実施 ○組織的キャリア教育推進 ▲変化する入試に対応	
	②キャリア教育実施	②進路希望100%実現	②進路決定率98%	B		
	③教員のタイムマネジメント	③生徒に関わる時間割合増	③進学補習等進路指導例年並	B		
教務 専門教育	①ICTで探究的な授業実践	①アンケート実施	①ICT研究授業8回実施	A	○ICTプロジェクトチーム発足 ▲ICTによる校務の標準化 と校務支援システムの構築	
	②個に応じた指導	②成績不振生徒5%以内	②少人数及び習熟度別指導実施	B		
	③電子教材活用と共有化	③学び方と働き方改革	③メタモジ活用研修等実施	B		

II 学校関係者評価 実施年月日：令和3年1月26日

△近隣の借用駐車場における自家用車の送迎マナーについて問題がある。
 △自転車通学生徒の私有地通行が散見される。具体的に指導をした方がよい。
 ○商業科と生活産業科が工夫協力して地域担い手の育成に取り組んでいる。
 ○コロナ対策したファッションショー等の実習が困難であったことが理解できた。
 ○生徒の発表から、充実した3年間であったことが理解できた。学校側の指導の工夫と見守りに感謝する。

12 来年度に向けての改善方策案

- ・引き続き内規の見直しを行う。
- ・校則等不断の見直しと併せ、時代に合った生徒指導体制に再編構築する。
- ・勤務時間を意識した働き方の推進と学校規模に合わせた部活動数の適正化を図る。
- ・コロナ禍の中、ICTを有効活用することでこれまで以上に質の高い専門教育推進を行う。同時に本校の取り組みを地域に対して情報発信する。